

JA三重厚生連は、医療・保健・福祉活動を通じて、組合員と地域住民の皆さまが、安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献していきます。

厚生連だより

Letter of JA Mie Koseiren

Vol. 78

2019. 1

椿大神社 かなえ滝



もくじ

新年のごあいさつ	2
緩和ケア病棟が開設されました	3
第一回「自由すぎる！ Team Wet Lab」	4
ステーション長に就任して	
／南伊勢町地域包括ケア関係者会議の開催について	5
秋の音楽会／くわな 2018 農業まつりに参加して	6
第9回三重精神科医療フォーラムが開催されました	
／認定看護師紹介	7
「簡単！」鈴鹿厚生病院の広報誌レシビ	8

CHECK!



JA三重厚生連の
取り組みを紹介!

新年のごあいさつ



経営管理委員会会長 谷口 俊二

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかな年をお迎えのことと存じ、心よりお慶び申し上げます。平素は厚生事業に深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、米国抜きの 11 国による TPP 11 が発効したほか、日欧 EPA（経済連携協定）の署名、さらには日米物品貿易協定の交渉が進展し、今後は農畜産物の大幅な市場開放が求められることになります。

本年は、5月に農協改革集中推進期間が期限を迎えるなか、JAグループ三重は、第43回JA三重大会で決議した「多彩な農業の拡大」、「元気な地域づくりへの貢献」、「わがJA」意識の醸成、「経営基盤の確立」の実現に向けて、地域・農業・JAの特性を生かし、創意工夫をこらした総合事業と協同活動を積極的に展開していきます。

医療・福祉分野では、超高齢社会の到来に向けて、増高する社会保障費の財源確保と削減に向けた施策が進められています。昨年は、診療報酬と介護報酬が同時に改定され、診療報酬がマイナス改定となるなど厳しい医療情勢が続いています。本年は、消費税増税が予定されており、仕入にかかる消費税を控除できずに医療機関が負担する損税が増大し、ますます経営を大きく圧迫してきます。

このような状況の中、JAグループの一員として組合員及び地域住民の皆様が住み慣れた地域で安心して健やかに暮らせるよう、選ばれる病院づくりを目指し、役職員一丸となって邁進する所存でございます。今後ともなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



代表理事理事長 斎藤 義則

新年明けましておめでとうございます。皆様には爽やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、平素は本会事業に対し、暖かいご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は本会にとって長年の課題であった『財務改善計画（固定比率100%）』を達成することが出来ました。そして次の段階として、次期施設整備に向けての建築資金の内部留保を最優先課題とした『財務充実計画』の記念すべきスタートの年でありました。

また、昨年は診療報酬・介護報酬同時改定の年であり、国が地域包括ケアシステムの構築を推し進めている中で節目の改定でしたが、大方の予想通り診療報酬は極めて厳しいものとなりました。

本年は4月30日をもって現在の天皇陛下が退位され平成の時代は終わり、5月1日より新天皇が即位され新元号となり、新たな時代の到来を予感します。

本会にとっても『財務充実計画』の2年目であり、着実に次期施設整備に向けての礎を創る大変重要な年度となります。『財務充実計画』を着実に進めるためにも「三重県の医療は我々がリードしていく」との気構えを持って臨みたいと思います。

一方、JAを取り巻く環境も5月に農協改革集中推進期間の期限を迎えるなど、農協改革も次の段階に突入し、益々厳しさを増してきます。この危機に対しJAグループ一丸となって乗り切っていかなければなりません。

医療・農業を取り巻く環境は増々厳しくなっていますが、新年度も本会基本理念のもと、組合員および地域住民の皆様が安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献するため、役職員一丸となって取り組んでいくこととお誓いし新年の挨拶といたします。

緩和ケア病棟が開設されました
 〓 残された時間をその人らしく過ごせるように支えていきます 〓

鈴鹿中央総合病院 緩和ケア病棟師長 涌中悦子

平成30年11月1日、当院の北館（増築棟）4階に緩和ケア病棟が開設されました。

当院は三重県内3つの地域がん診療拠点病院の1つであり、そして緩和ケア病棟は松阪以北では唯一の急性期病院緩和ケア病棟となります。

病床数は全室個室の20床あり、無料個室10床・有料個室9床・有料特別個室1床があります。病棟の構造はPCU（パリアティブ・ケア・ユニット）の設備を備えています。

PCUとは、「緩和ケア病棟。緩和ケアを行う病棟。患者の意思や生活を大切にし、個室でキッチンなどの設備を持ち、家族の付き添いや外泊・外出も制限されないなどの特徴をもつ」とされています。（大辞林 第3版）

患者さんとご家族さまが、心穏やかに過ごせるように、より多くの時間を共に過ごせるように、がん看護専門看護師が中心となり、思いを込めて家具を選び、アメニティにもこだわり、またナースステーションなどスタッフ関連のエリアは、機能性を重視したつくりになっています。

緩和ケア病棟に入院される患者さんは、がんに伴う身体的・精神的な苦痛を持ち、緩和ケアが必要と判断された方が対象になりますが、がんに対する

抗がん治療や延命治療を望まれる方は対象となりません。

緩和ケア病棟の理念は「患者さまとご家族さまの思いを尊重し、残された大切な時間をその人らしく過ごすことができるように支えます」です。

理念は私たちが最も大切にしているものです。私は緩和ケア病棟に配属になり、今まで以上に理念の言葉の持つ重みを感じています。

病棟看護師は、緩和ケア認定看護師や緩和ケア委員会で学びを積んで

きた看護師、また各部署の師長が後押ししてくれて選ばれてきた看護師など様々ですが、よく集まったなと感心するくらい、優しくまじめな看護師ばかりです。

緩和ケア病棟が開設されてまだ1ヶ月ですが、患者さんの看取りを連日させていただきました。患者さんの看取りは誰もが経験しておりますが、患者さんの臨死期のケアを濃密に行うことでの蓄積される思いに対するケアも必要であることも教えられました。

緩和ケア内科医師をはじめ、精神科医師・臨床心理士・がん看護専門看護師らのサポートを受けて乗り越えていくことも実感しました。これからも、緩和ケアチームと協働し、多職種チームアプローチとして、看護師の役割ができるように、共に成長していきたいです。ケアリングを意識した質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアが実践できるように、患者さんとの出会いを大切にした看護をめざしていきます。



無料個室



ダイルーム 右奥にキッチンがあります



朝のカンファレンス風景

第一回「自由すぎる！Team Wet Lab」 〜手を使った治療の面白さや喜びを体験〜

医療についてよく言われる言葉に、「医療はscienceであると同時にartである」というものがあります。医療のscienceの部分は、日進月歩発展する科学に裏付けられた診断、そしてartの主な部分は、治療とも言えるでしょうか。治療するにあたって薬も重要ですが、手を使った技術（art）の部分が不可欠です。救急から日常臨床まで、手を動かして治療する場面は多く存在します。

私は眼科医として医療に従事し四半世紀以上（！）、幸運にも術者のはしくれとして自らの手を動かして治療するという、医師の醍醐味を経験させていただいている毎日ですが、この幸運を再認識する機会があります。それは、当院が臨床研修病院でもあることから、若い後進医師が真摯に医療に取り組み、技術を磨いている姿に日々遭遇することです。昨今の医療を取り巻く環境は厳しく、規制や制約の多い中、難題に直面しつつも実に冷静に仕事をこなしている姿に、年長者である自分の方が学び感服する機会もあります。

そこで、年長者として何かできないか？ そつだ、思う存分自由に手を動かしてもらおう模擬手術セッションがよいかもしいない？と眼科Wet Lab（模擬手術）を思い立ちました。眼

科手術だけでは魅力不足と考え、医局の協力をお願いしたところ、二つ返事で外科と胸部外科のお力添えをいただくことになりました。平成30年10月18日、三科合同の第一回「自由すぎるTeam Wet Lab」開催となりました。

開催概要を簡単に説明します。まず病院の一室を大きく三つのブース、胸部外科、消化器外科、眼科に分け、胸部外科は豚の心臓の手術、外科は模擬内視鏡、腸管吻合などの手術、眼科は豚眼の白内障手術が行える臨場感ある設備を設置。時間のある時に自由に好きなブースで模擬手術、手技を実践するというものです。傍らに、スターバックスのコーヒー、スナックやお菓子ブースも気分転換にと準備しました。全ブースクリアする人、心臓に熱中する人、内視鏡から離れられない人…。当日は多くの研修医が来場し、入れ替わり立ち替わり真剣な表情で各種手術や手技をこなしていました。看護師や技術職員も参加しました。参加者皆さんの瞳は星が入ったようにキラキラ輝き、素晴らしい光景になりました。それに感化され私も指導医のもと、心臓血管縫合をさせていただきました。ご多忙を極めるそつそつたる上級医の先生方もかけつけてくださり、大盛況。

松阪中央総合病院の力強さを感じた日でした。この場をお借りして、ご協力いただきました皆さまに厚く御礼を申し上げます。

この企画には、先輩から後輩へ2つのメッセージが込められていると思います。一つは、新しく医療に従事する人生を歩み始めた研修医の先生方にできるだけ自由闊達に色々な経験をしたいということ、二つ目は、手術を含め手を使って治療することは、面白く達成感や喜びが得られるということです。

この企画を通じて私は確信しました。三重県の医療（特に松阪？）の未来は間違いなく明るい。なぜなら、このように熱意ある若い医師が大勢いるからです。今年度中に第二回も開催予定です。

松阪中央総合病院
眼科医長 久瀬 真奈美



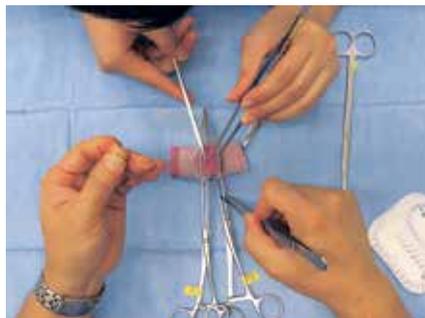
豚の心臓手術



豚眼頭顕微鏡手術



集合写真



腸管吻合



内視鏡手術シュミレーター

ステーション長に就任して
〜最期まで地域で過ごせることを目指して〜
大台厚生病院訪問看護ステーションふるさと ステーション長 戸上ゆかり

平成30年10月よりステーション長をさせていただいています。利用者・家族様のために何ができるのか、当施設スタッフや居宅支援事業者の方々と連携しながら現在、日々奮闘中です。

平成30年11月25日に松阪地区医師会主催（後援：大台町、大紀町、大台厚生病院）にて「看取りってなんだろう」をテーマに町民公開講座が開催されました。当ステーションからも1事例を報告させていただきました。日頃訪問させてもらっている利用者・家族様でも「悪くなったら救急車で病院に連れて行かなあかん」と思ってしまった。「自宅が最期まで看させてもらえる事をお伝えすると、「それやったら、自宅で看取りたい。頼むわ。」と言われました。関わらせていただいた方が入院となり拜見する姿は何ともいえず寂しそうです。また笑顔が何処かに置いてきてしまったのかなと思うことがあります。

『地域で最期まで』とよくいわれますが、本当に地域の方々がその人らしく、できる限り最期まで過ごせるよう心を新たに、支援させていただきたいと思っています。



講座の様子

まだまだスタートしたばかりの高齢（笑）主任ですが、そろそろ心に余裕をもって日々の業務に励みたいと思っています。わからないことを解決したいと色々お尋ねすることも多いですが、宜しくお願いします。

南伊勢町地域包括ケア関係者会議の開催について
〜講演会や勉強会の開催を通じて地域貢献〜
南島メディカルセンター 事務部長 見並邦久

南伊勢町では現在、高齢になってもできる限り住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らして続けられるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の実現を目指しています。

南伊勢町の人口は1960年の32,070人をピークに減少が進んでおり、平成30年10月31日現在では人口12,849人、高齢化率も県平均を大きく上回り50%に達しようとしています。このように人口減少・少子高齢化の進展状況については町村部等で大きな地域差が生じているため、地域包括ケアシステムは地域の特性に応じて作り上げていかなければなりません。地域包括ケア関係者会議は、そのためのひとつの取り組みです。町が行う推進会議や個別ケア会議とは別に、多職種の『顔の見える連携』をテーマに定期的に開催されています。

平成30年11月15日、第19回目の関係者会議は、初めて南島メディカルセンターを会場とし、医師や看護師、各技術職、介護職、ケアマネージャー、行政職など61名の方々に集まっていたできました。

まず、会場ですが、こんな大勢を収納できる会議室はありませんので、夜間の外来待合ホールを開放し、スクリーンや音響設備を準備いたしました。

会議の前半は、当センターの式田センター長から「骨粗しょう症の予防と治療」と題して講演を行いました。骨粗しょう症の定義・疫学・診断といった少し専門的な内容から、予防と治療についての具体的な説明、食事やロコモティブシンドロームを防ぐ体操の紹介まで話題を広げ、様々な職種の方が日常業務の参考にして



式田センター長による講演の様子



グループワークの様子

ただける内容になっていたと思います。後半は、式田センター長の講演内容をふまえて、「私たち」でできることをテーマにグループワークを行いました。「多職種の方のそれぞれのお話を、現場の声をダイレクトに聞くことが出来て勉強になった。」「前向きな意見を多く聞けて良かった。」などのご意見を頂いております。有意義なグループワークであったと感じています。また夜の待合ホールを使った開催に非日常感があった良かったとの意見もあり、設営に腐心した甲斐がありました！

前段でも申し上げたとおり、南伊勢町では現在も人口減少が進んでおり、とすれば後述の向きな話題が多くなりがちです。しかし、こうして地域住民を支えているという多職種の皆さんが一堂に会し、その熱意に触れるに当たり、まだまだ南島メディカルセンターでも出来ること、やらなければならぬことがたくさんあるのかなという思いです。

今後は、このような講演活動や勉強会の開催などにも積極的に取組み、これまで以上に地域に貢献できるよう努めていきたいと考えています。

秋の音楽会

「迫力ある生演奏に患者さんも泣き笑い」

三重北医療センター 菰野厚生病院 療養病棟看護師長 岸田 育代

「相手の気持ちを考え行動し、笑顔の花を咲かせよう」

三重北医療センター 菰野厚生病院の療養病棟では、この言葉をモットーに患者さんたちの充実した療養生活が送れることを目指し、日々業務に励んでいます。

認知症予防体操や口腔体操といった日常的な活動だけでなく、患者さんに楽しんでもらえるよう定期的にレクリエーションを企画しています。

その一環として平成30年10月28日に亀山市吹奏楽団をお招きし、演奏会を開催しました。

亀山市吹奏楽団、通称「亀市吹（かめしすい）」は幅広い年齢、多様な職種の方々が集まって活動されており、演奏会や各地のコンサートにも数多く参加されています。

当日はピッコロ、フルート、オーボエ、サクソフなど総勢28名のメンバーにお越しいただき迫力ある演奏と歌を披露していただきました。患者さんも車椅子や歩行器、ベッドなどで全員フロアに集合し演奏会に参加され、一堂に並んだ楽器たちに始まる前から興味津々の様子。

演奏会は楽団の皆さん全員による迫力ある演奏の生演奏に始まり、楽器の紹介を兼ねて各パートの演奏、そしてテノールの生歌唱というプログラム。序盤こそ患者さんは演奏を静かに聞いて

ているだけでしたが、曲を重ねるにつれて患者さんたちに変化が……。

真剣な表情が自然と笑顔になり始め、リズムに合わせて手を叩いたり、知っている歌と一緒に歌ったりと、患者さん自身が演奏に参加しはじめたのです。なかには感極まって涙を流したり、両手を合わせて拝む患者さんまで！ 吹奏楽団・スタッフ・患者さんで作り上げる演奏会は最後の曲まで大盛り上がり。さらに楽しい時間が終わるのが惜しいのか、すべての曲が終わった後も全員でアンコールの大合唱。病棟全体が多幸感に包まれながら演奏会は幕を閉じました。

スタッフ一同でイベントの大成功を喜びました。なにより患者さんにあけだけの笑顔をお届けしてくれた亀山市吹奏楽団の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。今後また皆さんの笑顔の花を咲かせ続けられるよう、スタッフ一同がんばりたいと思います。



亀山市吹奏楽団のみなさん



秋の音楽会の様子

くわな2018農業まつりに参加して
「イベントを通じて地域住民と触れあおう」

三重北医療センターいなべ総合病院 事務次長兼総務課長 近藤 克博

秋晴れの清しい天候のもと「J

Aみえきた桑名ライスセンターまつり特設会場」を舞台に、平成30年11月17日～11月18日の2日間にわたって開催された「くわな2018農業まつり」に看護師と参加してきました。催し物としては、新鮮な野菜販売、JAみえきた各支部による屋台の出店、地元中学生による吹奏楽演奏、和太鼓グループによるパフォーマンス、ダンスチームによる演舞、消防車・パトカーとのお子様記念撮影会など、大人も子供も見て参加して楽しめる催しが連日行われました。今年

は第30回の記念大会と言いつ事もあり多数の来場者で大盛況の中、当院のブースでは、体脂肪測定及び血圧測定を行い多数の測定希望者に訪れていただきました。ブースを訪れる方は皆さんやはり日頃から健康に関心がある方ばかりで、測定結果に一喜一憂する姿が見られ、測定後は食事に関する注意点や運動の仕方等質問が多数寄せられました。いづれも初対面の皆さんでしたが気さくに笑顔で会話をしていたいただき、こちらも非常に楽しい時間を過

ごさせていただきました。結果、両日で約120名の測定を行い当院の推し進めている診療の案内や健診パンフレットを手にとっていただく事が出来ましたので少しは病院のPRになったと思います。今後このようなイベントに参加し、地域の皆さまとの触れ合いを大切にしていきたいと思っています。



地元中学吹奏楽部演奏



和太鼓グループパフォーマンス



にぎわう会場メイン通り



健康相談コーナー

第9回三重精神科医療フォーラムが開催されました

日々の業務における成果や課題を再確認

鈴鹿厚生病院 作業療法士 石崎健

平成30年10月17日に三重県総合文化センターに於いて三重県精神科病院会主催による、第9回三重精神科医療フォーラムが「精神科医療の進歩と改革をめざして」―チーム医療の充実と

地域生活支援の実践―をテーマに開催されました。今回は上野病院、久居病院、鈴鹿厚生病院が担当病院となり、三重県下の精神科病院から様々な取り組みが発表され、日ごろ精神科医療に携わる医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士など多職種による取り組みを幅広く知ることができました。

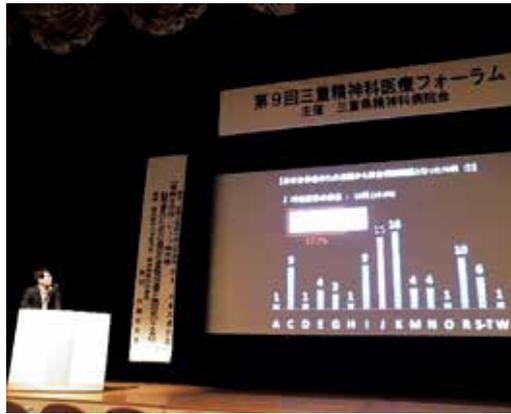
中でも治療抵抗性統合失調症治療薬と作業療法の併用や、認知症患者さんへのコンフォートケアに基づく取り組みはたいへん興味深く、当院の現状も再考する機会となり、理解を深めることができました。ただ、今回のフォーラムのテーマであるチーム医療や地域生活支援についての発表が少なかつたのは少々残念でありました。

今回、私も「テイケアでの疾病対処技能向上プログラムの実践」その効果と課題についてをテーマに発表の機会をいただいたことで、日ごろの取り組みについて改めて振り返り、成果や課題を再確認することができました。今後もし流れがちな日々の業務の良し悪しを冷静に分析し、対象者

の方々に求められるリハビリテーション支援が展開できるよう努力していきたいと思えます。



開会式の様子



さまざまな取り組み発表

認定看護師紹介

認知症看護認定看護師としての思い

三重北医療センター 菰野厚生病院 4階病棟 認知症看護認定看護師 水谷行雄

平成30年の7月に認知症看護認定看護師に認定された水谷行雄です。普段はS4病棟で勤務しています。現在、認知症は「国民病」と言われる様になり、2025年には認知症の方は約700万人を越えると言われております。これは高齢者の5人に1人は認知症になってしまふということです。私は、認知症の方は住み慣れた環境の中で穏やかに生活して頂くことが一番だと考えます。しかし、認知症の方は認知機能の低下により、入院時に自身の思いをうまく表出できず、環境変化に対応する事が困難なため不安や苦痛などの不快な感情を抱えてしまいます。その感情が元で認知症症状の悪化や心理・行動障害(BPSD)の発症、増悪の可能性が多くなります。認知症状の悪化やせん妄(一時的な意識障害が原因で起こる問題行動で、認知機能の低下で起こりやすい)は患者さんや家族の苦痛に繋がります。援助を行う職員も身体的・心理的負担の増大にも繋がります。

現在は認知症の方への支援として、認知機能の低下予防や緩和を目的に週2回認知症患者さんを対象とした『和楽の会』という院内レクリエーションに参加しています。又、2週

間に1度の認知症・せん妄ラウンドを神経内科医師と開始し、患者さんやスタッフの苦痛・負担の軽減に向けた活動を行っています。これまでの現場では医療行為が中心となり、認知症患者さんの思いをくみ取り医療に繋げていく事は少なかつた様に思います。今後は、認知症患者さんの思いが医療に反映されるような働き掛けを行っていかねければと考えています。まだまだ力不足で皆様にはご迷惑をお掛けしていますが、医師・看護師・リハビリ・薬剤師・社会福祉士等との連携を行い、認知症患者さんが住み慣れた環境の中で「その人らしく」安心して生活が送れるよう、支援を行っていきたくと思っています。同時に自宅で介護されている家族の方の思いや、今後の不安に対する相談やアドバイス等家族支援にも力を入れていきたいと思っています。



院内レクリエーションの様子

「簡単!」鈴鹿厚生病院の広報誌レシピ
旬の食材を使った、「○○するだけ」簡単レシピ

鈴鹿厚生病院 栄養科 管理栄養士 村井真由美

鈴鹿厚生病院では広報誌に毎回簡単料理を掲載しています。

病院の管理栄養士が紹介するレシピとなると、「体に良いレシピ」とイメージされますが、紹介する以上、作って食べていただくことが大切と考え、なるべく簡単であることを前提にレシピを作成しています。

例えば、春の茶そばでは、茶そばは茹でるだけ、後は野菜を切って盛り付けるだけ。

夏の野菜の焼き浸しは切って焼いて漬けるだけ。冬の牡蠣と鮭のおろしポン酢は焼く、おろす、ポン酢をかけるだけ、その他、ご飯物の場合は、具材は切って炊飯器と一緒にに入れて炊くだけ。また、味付けはめんつゆ、ポン酢など単品使用出来るように考えています。

このように、旬の食材を使い「○○するだけ」で簡単に自炊していただくことを考えてレシピを作成しています。
当院の広報誌で紹介したレシピを紹介します。

① 牡蠣と鮭のおろしポン酢かけ (冬)

【材料 (2人分)】

- 牡蠣…6個
- 鮭…1切れ
- 塩こしょう…適量
- 片栗粉…適量
- 油…適量
- 大根…5cm程
- ポン酢…小さじ4

- ① 大根は皮をむき、大根おろしにする。
- ② 牡蠣は少量の大根おろしを使って洗い、大根おろしを水で流し、水気を切る。
- ③ 鮭は1口大に切り、塩こしょうで下味をつける。
- ④ 鮭と牡蠣に片栗粉をまぶし、余粉をかるくはたいて全体に粉をまぶす。
- ⑤ フライパンにサラダ油を強火で熱し、鮭と牡蠣を焼く。鮭、牡蠣ともに両面をカリッと焼きつけ、かるく焼き色がついたら、ペーパータオルの上にとって油をかるくきるようにして取り出す。
- ⑥ 器に鮭と牡蠣を盛り、大根おろしを添え、ポン酢しょうゆをかける。

※薬味はお好みで (写真は葱と柚、レモン)

【栄養量 (1人分)】

エネルギー 199キロカロリー
塩分 1.4g

② 茶そば (春)

【材料 (1人分)】

- 茶そば…1束
 - 新玉ネギ…1/4個
 - 葱…少々
 - 大根…少々
 - アスパラガス…1本
 - めんつゆ (ストリート)…90ml
- (野菜は季節の物を中心にお好みで)

- ① 新玉ネギはスライスし、水にさらす。
 - ② 葱は小口切り、大根は千切りにする。
 - ③ アスパラガスは根元のかたい部分を切り除き、茹でて2等分する。
 - ④ 茶そばを茹で、器に盛り付け、①〜③の野菜を盛り付ける。
 - ⑤ めんつゆをつけて食べる。
- ※めんつゆは薄めの方が茶そばの風味を楽しめます。

【栄養量 (1人分)】

エネルギー 403キロカロリー
塩分 2.5g



牡蠣と鮭のおろしポン酢かけ



茶そば

JA三重厚生連

人に 地域に やさしい看護

看護師 助産師 看護補助員 介護福祉士 募集



厚生連だより Vol.78

発行 / 三重県津市栄町1丁目960番地 2019.1発行

三重県厚生農業協同組合連合会

TEL 059-229-9191 FAX 059-224-4354
http://www.miekosei.or.jp/ E-mail:info@miekosei.or.jp



自然保護のため、石油系成分の少ない植物油性インキを使用しています。